

しべつ

議会だより

3月定例会

第150号

平成26年5月1日

150号記念特集	2～9
行政報告	10
町政のそこが聞きたい(一般質問)	12～16
予算審査特別委員会	17～18
各種会議の出欠状況	19

発刊150号
特集号



標津町の未来を担う「ピカピカの一年生」

～4月7日 標津小学校入学式より～
上級生に手を引かれ、緊張気味の君と余裕の僕

今年の新入生

標津小学校 29名
川北小学校 8名

発行／北海道標津町議会

編集／広報特別委員会

に寄せて～

～議長～

～町長～

議会だよりの第150号の発刊にあたり、標津町議会を代表してごあいさつ申し上げます。

議会だよりは、昭和四十三年五月に創刊以来、年4回開催される町議会定例会、臨時会、常任委員会等の情報を町民の皆さんにお伝えし、このたび第150号を迎えることになりました。これもひとえに、町議会に対する町民の皆様のご理解とご支援の賜であります。

町議会といたしまして、町民の皆様への情報発信と開かれた議会



標津町議会議長 田中 孝幸

を目指してまいります。

また、今回の150号発行記念特集号を契機として、町議会だよりの長い歴史を振り返るとともに、町民の皆様のご意見をいただきながら、紙面の充実に一層の努力をしてまいります。

今後とも、より開かれた、わかりやすく親しまれる議会となるよう全力で取り組んでいきますので、町民の皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。



しべつ議会だより一五〇号となる記念号の発刊を心からお祝い申し上げますとともに、これまで編集、発刊に当られた皆様の熱意とご尽力に対しまして、深く敬意と感謝を申し上げます。

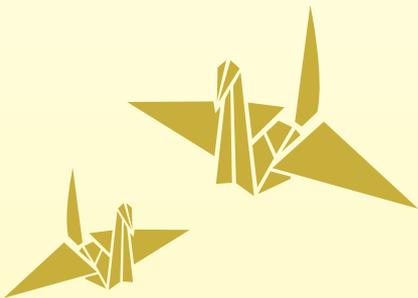
議会だよりの使命は、町民と議会をつなぐパイプ役として、その活動状況や議会として決定したことを広く町民の皆様へお知らせすることにあります。限られた紙面の中で、町民の皆様が求める情報を的確に掲載することとは、非常にご苦労さ



標津町長 金澤 瑛

れることは存じますが、議会、町、そして町民の皆様が正確な情報を共有することは重要なことでもあります。

今後、議会だよりの発刊を通じて、身近に感じることを目指して、いっそうご活躍、ご奮闘されますとともに、標津町議会の更なるご発展を祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。



議会だより

編集特別委員会委員長

(H23.3.22～H33.4.30)



荒谷 良治氏

議会だよりの記念すべき百五十号の発行を心よりお慶び申し上げます。

私も、委員として、二十三号から六十号の発行に携わりました。先輩や専門講師の指導を受け、他の町の紙面を参考にさせていたなど、より良い紙面づくりに励みましたが、なかなか納得した紙面にはならず、編集の難しさを痛感したものです。

委員のご努力で、親しまれる紙面編集がなされ、さらに号数を積み重ねられていくことを祈念いたします。

議会だより

編集特別委員会委員長

(H35.1～H7.4.30)



太田 忍氏

議会だより発刊百五十号の節目に原稿の依頼があり筆紙とします。いろいろの思い出にひたりながら、特に今は鬼籍に入られた先輩からの指導、短い出合いの中で多くの町民から含蓄ある提言が耳目にうかんできます。

これも同志の協力によって、連結できた事と感謝しております。私共の時世もかすかすの事象もありました。『日進月歩』と云う明るさ、希望もあった。今は『多事多難』の時世だと感じています。委員の皆様には、大変な時世、健闘を祈る。

議会だより

広報特別委員会委員長

(H11.5.7～H15.4.30)



大園 博元氏

議会の議席を拝命してから議会だよりと十六年の長きに渡り関わってきました。全編集委員のメンバーが分担して校正に集中して編集発刊された紙面が毎回自慢の出来映えと思いつつも町民も皆様方の目にはどの様に映っていたのか不安もありました。或先輩議員から一般質問の主旨とニュアンスが若干違つとクレームが付き細心の注意をして編集にあたった記憶を思い出した。

百五十号の発刊に寄せて議会誌が二百号・二百号と発展し続く事を願いつつ。

議会だより

広報特別委員会委員長

(H15.5.8～H23.4.30)



吉田 浩一氏

150号記念発行御祝い申し上げます。私が担当したのは77号から138号と市町村合併臨時号です。

議会活動をタイムリに伝えるため、会議の録音テープを自宅に持ち帰って何度も聞き直して原稿にした日々を想い起こします。

担当した当初、個人的にアンケートを取って質疑の内容を希望する町民が多く、重点的に記事にしました。

質疑が多い時は記事も多く、少ない時は苦慮したものです。

議会のありのままの姿が反映されます。



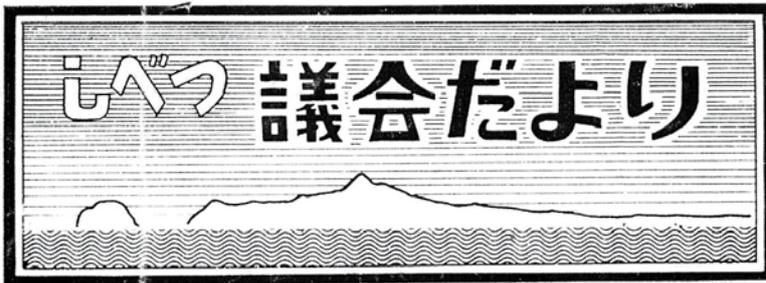
しべつ議会だより

第1号から第150号までの歩み

第 1 号

標 津 町 議 会 だ よ り

昭和43年5月1日



昭和43年5月1日 発行

第 1 号

行 集 標津町議会議員会
編 人 笹 谷 進
発 行 人
印 刷 藤 田 印 刷 所



※46年の歳月において、破れ消失しています。



標津町長 小野幸三

『議会だより』発刊に寄せて

地方自治は、民主政治の基盤といわれ、地方自治の振興は、市町村の堅実な発展に、その基本があるといわれます。

市町村の堅実な発展とは、理事者と、議会が、そのあるべき本来の意義を体し、相尊重し、相調和しつつ、その市町村住民の福祉を追求しつづける事であると信じます。

本町に先日議員会が発足し、今回「議会だより」発刊の運びに

なつたことは議会活動が活発化し且つ町民と議会とのきづなが一層深まるもので誠に喜ばしいことであります。

本年は時、恰も北海道が百年、我が標津町が九十年の風雪を経て今日の進展をみた記念すべき年でもあります。

今こそ八千人町民が、融和一致祖先、先覚者の打ち樹てた意義ある歴史、伝統を受け継いで、新しい創造意欲を燃やすべきときであります。その意味からも、今回発刊される『議会だより』が町民と議会のかけ橋となるだけでなく、新しい町づくり意欲発揚の根源となる様、永く町民に親しまれ、愛されつづけることを期待し、発刊の御祝と致します。

編集後記

口で言う事は簡単だが、文章にまとめて書くと言う事はなかなか大変の事であった。

私なりに随分、苦心しましたが兎に角第一号を発刊することが出来た当初から形式的なことや、格式ばつたこと、論文的なことを打破して、町民の皆さんに親しめる様に、そして町民に関係のあるニュースや意見、発想などを、自由にとり上げてみたいと思つていた。みんなに愛される、やわらかい会報に育てあげて、ぜひ長く続けて行きたいものである。

内容は議会に於ける発言を中心に、町民や議会に関係のあることを、細大もらさず登載して行きたいものと思つている。

よいこと、悪いことをチクリと風刺した「やぶにらみ評論」とか回り番で好きな事を書く「リレー放談」町内のルポ、議員や、住民の提案「ちよつぱり一言」「一刀両断」「皆のひろば」など色とりどりにやつてみたい……そう思つて私はフアイトを燃やしている。

座談会をやつたり、アンケートをとつたり、どなたかに問題を提示して投稿もお願いしたいと思つている。第一号は私のワンマン紙になつた様だが、投稿を依頼しても、書き方の要領がわからなくて書き難かつた様だ。第二号にはぜひ皆さんの盛大なる投稿をお願い致しております。

(笹谷 生)

◎高橋議員

標津高校の生徒は、正門から入れないで、裏口から入っている。裏口入学ではないかと、皮肉ついていた。

(正面玄関は来賓用さ!!)

◎近藤議員

標津―伊茶仁間の舗装道路鉄柵は自動車運転視角の上から却つて危険であると力説。

(ホントに鉄柱五本倒れているよ。……)

◎箭浪議員

福祉センターの建設について、「樹を植え、花を咲かせ、緑に包まれた町民憩の場を……」と公約した町長公約は実行されていないと急迫。

(ソナニ急くなよ。昨午出来たばかりだもの……)

◎梨本議員

町有ダンブカーの一日の運行キロ数と、所要燃料量は?と専門的な難問をして、担当課長の日を白黒させていた。

(お前さんはシヨウバイニンだよ……)

◎笹谷議員

老人クラブの運営助成金が昨年一ヶ所宛一万五千円、本年は一万と引下げた事を、前向きでなく後向きの姿勢だと攻めていた(老人でも廻れ右は出来るよ)

◎境議員

新しい寄宿舎の屋根裏に通風口がないので、トイレに行くのに両もりで(結露)傘さして行く有様だとキビシイお叱り。

(次の日、早速私は見学に行つ

て傘ささないでやつて来ました)

◎佐藤議員

昨年は母子の家の用地問題で大部テコジツタらしく、薫別漁港用地確保で早々と申入れてた(去年は大部ヤラレタラウ)

◎太田議員

野犬毒殺は毛皮本意で十一月からやつている。夏皮のときでもやるべきである攻めていた。

(オレは尻ツ尾を捲いて逃げ廻るゾ……ワン公)

◎五百木議員

建設予定のウラツ川防砂防堤は、川北簡易水道の用水池として絶好なりと名提案町長コクン

予算委より

ちよっぴり一言!

とうなづいていた。

(筆者はコツクリ……)

◎佐々木(正)議員

標津酪農は甜菜酪農にあらず、草地酪農にありと得意の独壇場(ア〜いい気持ち!!)

◎金田議員

税務署から聞いて来たと言う事を知らんふりして、二才犢牛の必要経費を、いくらと算定するかと、担当課長をいじめていた。

(意地悪る爺さん、こんなタイプかな?)

◎山下議員

あのタイプで下腹をデーンと出して、ナマイキな農業普及員の態度をガチンとやつつけていた。

(生意気な公務員はやつつけろ?)

◎浪平議員

魚仲間人組合の手前、伊茶仁水道に対する熱意をジャージャーとブチまけていた。

(高い魚買わされて、おまけに水にまで金をとられるのだから)

◎大沼議員

他人の歯のことで、自分の頭を大部痛めていた様だったが……(オレなら他人の腹痛みなら三年でも我慢するよ)

◎佐々木(繁)議員

堅実運営を誇る漁協として、漁港問題には特別真剣、五ヶ年計画をキビシク攻めていた。

(オレも組合のあの制度資金を借りて新しい家建てたいなア〜)

◎後藤議員

薫別に産婆さんをほしいと力説していた。

(ハテ、いつ娘を薫別へ嫁にやつたつけ?)

◎山口税務課長

納税状況等の数字の、メモを見ながら下向いて説明……

(末席から声あり……)

◎小田桐総務課長

中曾根康弘ばりのマスクと、音声だが、古多糠中学校用地問題でチヨツト失投。

◎川畑産業課長

靖国神社、護国神社の参拝問題につづいて保母問題に答弁にたつた……

(意地悪S議員、保育所はいつから産業課の所管になったのか?)

造林地、寒風雪害に対する保険金に関して決算委の現地調査に洩れていたが、箇所は何処かと質問されて、古多糠北〇線カラ

マツ何本、何線〇〇何本、どこ〇〇何本と速射砲の様にタテ板に水とやられて……

◎岡本農産係長

甜菜酪農と草地酪農との関連性について専門的な学植の深さを披露。

(甜菜酪農つて甘い牛乳が出るのかなア?酪農を甘くみる様になつては大変だね)

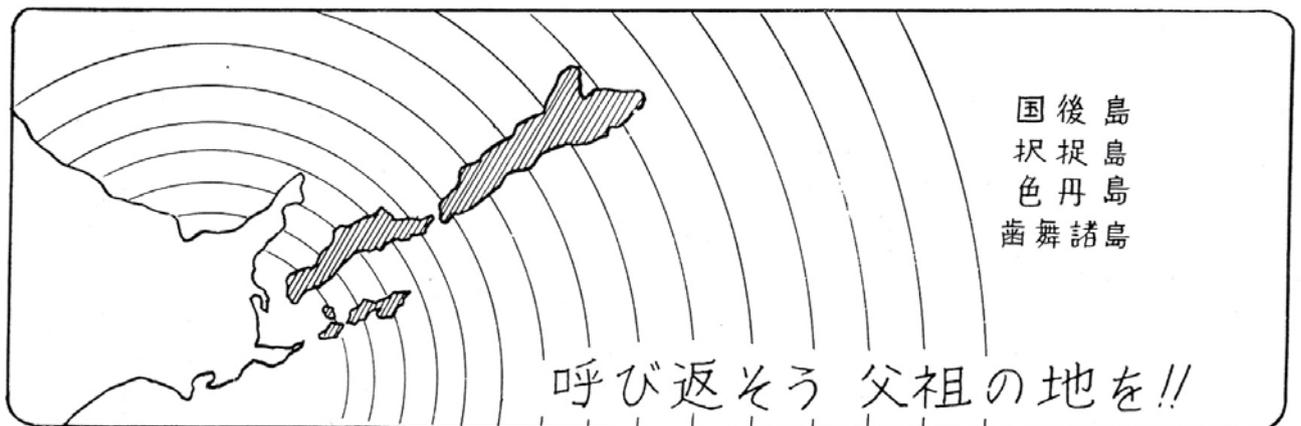
連日ヒナ壇にノセられて、ウルサ型のS議員、T議員が、教育問題でバンバンやつていた。

(いやはや、随分キビシイもんだ……)

※(四洲夢生)

島島島
後捉丹
国沢色
歯舞諸島

呼び返そう 父祖の地を!!





第50号
昭和63年8月10日発行
発行/北海道標津町議会
〒(01538)2-2131
編集/議会だより編集委員会
印刷所/標津印刷株式会社



今年もミツバチ族で大繁盛のサケの宿

主な内容

●第2回定例議会.....2	●高橋幹雄議員.....8~9
●昭和63年度補正予算.....2~3	●箭浪昇議員.....9~10
●議会日誌.....2~3	●意見書.....10
●意見書.....3	●議会だより50号を迎えて.....11
●一般質問.....4	●第2回臨時議会.....11
●西山吉二議員.....4~7	●道東地区議員研修会.....12
●矢部武議員.....7~8	●編集後記.....12

中編集後記

◆今年も又、四季の区別が出来ない天候が続く。特に春から夏の季節、そして秋への移り変りが全く見計がつかない。農・漁とも例年にならって仕事を進めているのが実態である。気温が低く悪天続きで農作物や牧草の成長が悪い水温が低く、海流のコースも変わるのか魚の廻遊がさっぱり、プランクトン不足が根付けの養殖事業も計画通りにならず自然の力のおそろしさ、自然の恵みの大切さを痛感する。

◆毎回議会だよりに必要な写真を簡単なバカチョンカメラと少々面倒なカメラで町内を廻って歩くが、前回は北標

津の酪農家にお邪魔させて頂き、仕事中の畜舎に入って大変御迷惑を掛けただけ、色々御厚意に預り厚く御礼を申し上げます。

◆恒例の管内四町の議員ソフトボール大会は別海で開催となるも、霧雨強く天候眺めをしながら室内でグラウンドボールで試合をして標津議会が優勝トロフィを確得する。其の後道東大会に出場する標津のため悪天の中を練習試合今は各チーム大差ない様である。

〔議会だより編集委員会〕

委員―太田 忍・大園博元
井上 均・菊池十一・荒谷良治

議会だより発行 五十号を迎えて

議会だよりが発行されて、今回が区切りの良い五十号となる。

今迄発行回数など考える余裕など全くない。毎回期限ぎりぎりまで原稿がまとまらず苦勞の連続で漸く出来上つて一安心と思いきや、誤字・脱字など色々反省する点ばかりである。

毎年札幌で広報研修会があり、各町村より出品された広報紙が一点一点批評され、その都度紙面作りの基本から議会紙としての役割など色々指導を受けて居り、その任務の重さを痛感しているところだ。

第五十号と云うと年四回発行して来ているので、通算して十二年と単純に計算されるが、なかなかその様にはならず、第一号は昭和四十三年五月に発行されているので二十年になる。

第一号から第十号迄は定例会ごと継続して発行されており、其の後編集者の都合により休刊となる。

昭和五十年八月、多数の町民の要望などあり、第十一号が文筆家であり又写真にかけては専門家なみの笹谷編集長により再び発行され、議員在籍中昭和五十四年四月迄の第二十二号迄、内

容的にも素晴らしい独特の文筆で議場の模様を始め、議員や理事者側にも常に最大限の努力を求めめる様思いつた指摘をし、ペンの強さを見せて、広く町民に愛されて来てた先輩紙に今更ながら頭が下る思いです。

昭和五十五年五月、第二十三号が一年間の空白後、菊池編集長を先頭に四名の委員でスタートする。

当時の編集後記の中に：大先輩の笹谷氏の後を引き受ける勇氣の人がいないと：とあり、また恐らく出来上がった紙面をみると、穴があつたら入りたい心境になると書かれておりますし又、定例会ごと此の苦勞が続くことでしようと思心その儘云っております。現在も今直その心境が引続いており私達編集委員は議会紙の役割の重要性を十分認識して、一号でも早く満足出来る紙面になる様努力して参る考えであります。町民多数の方々の御批判、御指導をお願い申し上げます。



表紙の変遷史

〈第22号〉昭和54年4月10日発行
 笹谷氏、議員勇退。最後の『編集後記』（抜粋）

「国後島と波をデザインした背景」この背景と表題のパターンは創刊号から第27号迄継続



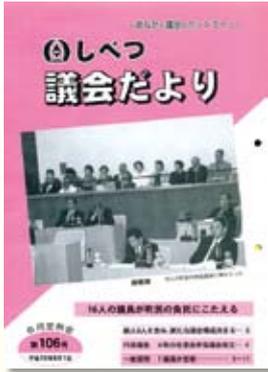
笹谷 進氏

編集後記

★ 開町百年の記念式典も終え、更に新しい二世紀へ躍進のスタートも切った。新しい町議諸君も選び出される。限らないわが町の飛躍を期待する。

★ “議会だより”も、私なりにワンマン紙で発行させて頂いた。それなりに苦勞も沢山あった。記事の内容で叱られた事もあったし、それを援けてくれた人たちもあった。

★ 標題、見出し、タイトルを大きく浮き出し、写真、グラフを沢山入れて、所謂「読む編集」から「見る編集」で押通して来た。これで良かったか悪かったか、とにかくこのスタイルでの“議会だより”はこれで終らせて頂きます。永い間の御愛読と御教示に対し深甚の謝意を表します。（笹谷 生）



〈第106号〉
 平成15年8月1日発行
 表題を水平にし、背景の色を濃いピンクに



〈第28号〉
 昭和57年4月15日発行
 ~表題の字体と背景変更~
 「北方領土」国後島の写真に「町花」ハマナスのイラスト



〈第117号〉
 平成18年2月1日発行
 背景の色を橙色に…



〈第77号〉
 平成7年8月1日発行
 表題の背景を、『サーモン科学館』に変更



〈第120号〉
 平成18年11月1日発行
 ~表題の字体変更~
 『しべつ』を強調



〈第81号〉
 平成8年8月1日発行
 表題の字体を変更し、更に、青・黒の二色刷りに…



〈第121号〉
 平成19年2月1日発行
 ~表題のデザイン変更~
 『しべつ』を小さくし、『議会だより』を強調

●このパターンは、第145号(平成25年2月1日発行)迄、継続

〈第91号〉
 平成11年9月1日発行
 表題の字体を変更し、更に、右15度上がりの傾斜を付け、右下に鮭のイラストを配置。この年、標津町開基120年標津町民祭り『水キラリ』始まる！



〈第100号〉
 平成13年12月1日発行
 表紙のみフル・カラー印刷



笹谷進編集発行人が病で議員を辞し、菊池十一編集発行人が第10号（昭和46年10月10日）を発行後、笹谷氏が復帰する迄の4年間と、笹谷氏が勇退し、5人の編集委員体制となり、第23号（昭和55年5月20日）を発行する迄の1年間、合計5年間休刊となっております。





〈第146号〉平成25年5月1日発行

本号より、表題を2段組とし、背景も変え、全頁フル・カラー印刷により見やすさアップ!



第147号より、基本5段組とし、活字を大きくし、読み易さアップ!



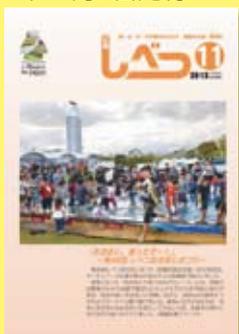
『広報しべつ』の色合いに合わせ、季節感アップ!



表題のしべつを大きくし、横組みにしました。

〈第148号〉平成25年11月1日発行

〈第147号〉平成25年8月1日発行



秋

夏

〈第150号〉平成26年5月1日発行

〈第149号〉平成26年2月1日発行



春

冬

2月16日から19日の 暴風雪に伴う除雪対応と被害状況

金澤瑛町長の行政報告

農業関係で被害が発生

2月16日に発達した低気圧が北海道に接近し、17日から19日にかけて千島近海に停滞したことに伴い、本町では18日に2月としては観測史上1位となる最大瞬間風速25mを記録するなど、過去に例を見ない長時間に及ぶ暴風雪に見舞われた。

この暴風雪により、町内の道道と国道は16日午後から随時通行止めとなったが、道道開陽川北線では21日午後全面開通するまで実に6日間わたる通行止めとなるなど、町道を含め町内の全域にわたり道路の通行不可能な状況が長引いたことから、酪農家への生乳集荷作業などに大きな影響が生じた。

町道における除雪については委託業者6社と町直営により16日の日曜日から連日実施し、特に暴風雪が治まった19日からは夜間に及ぶ除雪をしたが、20日の全面開通までに5日間を要した。この5日間に要した委託業者6社の除雪機械延べ稼働時間は710時間に上り、1月全体の稼働



大雪で除雪費2500万円の補正増

時間を55時間上回ったことから、2月20日時点の除雪経費は予算額6千60万円に対し、80・1%の執行となる4千8百56万円の支出になったところであり、今後の除雪に伴う予算に不足が生じる見通しとなった。

このため、2月24日開催の議会各常任委員会において、3月における過去の除雪実績を勘案し、2千5百万円の増額補正案を本定例

会に提出する旨、担当課長から報告をしたところであるが、ご理解いただきたい。

また、農業関係の被害状況であるが、ミルクローリーによる生乳の集荷作業ができなかったことから、生乳の廃棄については31の農場で31トン、家畜被害では屋外で飼育していた家畜の死亡が6頭（肉牛5頭・馬1頭）、育成舎での乳牛の圧死が3頭、その他D型ハウスの一部崩落が1件、牛舎の屋根、壁のトタンの一部剥離、扉の一部損壊が17件など、合わせておよそ20件の被害が確認されている。

尚、漁業、水産加工業関係における被害はなかった。

意見書

○ウイルス性肝炎患者に対する医療費助成の拡充を求める意見書
 提出者 文教福祉建設常任委員長 石橋 昌幸

○特定秘密保護法の廃止を求める意見書
 提出者 大垣 勇 議員

○地方自治体の臨時・非常勤職員の待遇改善と雇用安定のための法改正に関する意見書
 提出者 大垣 勇 議員

○TPP交渉等国際貿易交渉に係る意見書
 提出者 議会運営委員長 藤巻 国治

一般会計補正予算

主なもの(執行残や燃料の高騰によるものは除く) (単位:千円)

項目	金額	内容
公共施設協働當舖基金(リフレッシュ)積立金	100,000	政策積立
介護特別会計(事業勘定)繰出金	5,646	介護給付費の増、負担金不足分立替などの繰出金増額調整
子ども・子育て基金積立金	300,000	標津子ども園建設基金積立
病院会計繰出金	44,869	入院収益・その他医業収益・医療連携・情報ネットなど、建設改良費増による増額調整
酪肉経営振興対策基金積立金	50,000	政策積立
水産振興基金積立金	51,000	政策積立 50,000 指定寄附 1,000
除雪及び排雪経費	25,000	除雪業務委託料などの不足による増額
川北小学校トイレ改修事業	16,221	川北小学校のトイレ大規模改修、実質平成26年度工事
小学校ICT設備整備事業	1,597	情報活用教育機器として実物投影機12台、大型テレビ4台の導入
中学校ICT設備整備事業	596	実物投影機6台 大型テレビ1台

同意案件

根室町村等公平委員会委員
 羅白町

寺澤 哲也

〔任期〕
 平成26年4月1日～
 平成30年3月31日

固定資産評価委員会委員
 北6条西2丁目

西山美紀子

〔任期〕
 平成26年6月1日～
 平成29年5月31日

条例改正・制定

職員の再任用に伴う「職員の給与に関する条例の一部改正」や「標津町子ども・子育て基金条例」など12件の条例改正・制定を原案どおりに可決しました。

一般質問

町政のそこが聞きたい

平成26年第1回定例会(3月6～13日)で4議員が一般質問をしました。
各議員の質問項目とその内容を要約して掲載します。

小川 悠治 議員 ————— 13ページ

- 民間福祉施設間ならび病院との効率的連携のため「ひまわり」の役割は重大
 - ①民間施設と病院の連携
 - ②連携のための調整役機関を
 - ③「ひまわり」中長期的視野での人材登用・組織強化
- シルバー勤労会について

石橋 昌幸 議員 ————— 14ページ

- ふるさと納税の積極的な取り組みと活用について
- 標津町での道の駅の必要性について
- 忘れた頃にやってくる災害対策の再確認

木下 孝 議員 ————— 15ページ

- 人口減少対策について
 - ①定住人口対策（産業後継者の婚活支援）
 - ②交流人口対策（観光交流拠点施設）

吉田 智 議員 ————— 16ページ

- 「人口減少時代に挑戦する政策パッケージ」の成果は“未来航路の羅針盤”
～《川北市街地区》遊休町有地の分譲を～



本誌149号、12頁
決算審査特別委員会の
委員長報告の記事の左
記朱筆の箇所が誤植と
なっておりましたの
で、訂正させて頂きま
す。

毎年度、監査委員~~※~~
並びに決算審査特別委
員会によって指摘され
ている公的収入金の~~納~~
収の確保に万全を期さ
なければ、自主財源の
確保や住民の構成負担
を著しく損ねるなど野
の
観点から、徹底した対
策・対応を講ずること。

一字削除

お詫び

要介護の自宅待機者解消は 特養増床だけでは無理

サービス付き高齢者住宅と小規模 多機能型居宅介護施設を新設する



小川 悠治 議員

問 介護認定者232人の半数が自宅介護者である。

「はまなす苑」の一部増床だけでは対応しきれない。今回、サービス付高齢者住宅や自宅と施設を併行利用する小規模多機能型介護施設の新設が発表された。大幅な待機者解消と評価できるが、高齢者福祉の方向転換か。

答 当初、特養の20床増を考えてきた。しかし、将来を見通した場

合、介護基盤は地域密着型を進めるとの結論に至った。

・サービス付高齢者住宅31床、小規模居宅介護施設9床、計40床を新設する。

・既存施設については現状維持とする。介護対策はゴールなき取り組みと捉えている。



用語解説

☆サービス付き高齢者住宅(略してサ高住)

介護・医療と連携した高齢者住宅

☆小規模多機能型居宅介護施設

在宅介護と施設宿泊・通所介護を組み合わせたもの。定額、低料金。

ド稼働率の確保は待機者の減少・経営の安定・町および市民の負担軽減につながる。病院および施設間での連携が重要であり、調整機能としての「ひまわり」の役割は重

施設の効率的運営には 病院との密接な連携が不可欠

病院と施設の信頼関係が 醸成されてきた

病院および各施設間の 調整機能が必要

問 「はまなす苑」も

含めて町の福祉施設はすべて民間施設である。地方の福祉施設経営は非常に厳しく、町の支援無くしては成り立たない。また、経営はベッド稼働率によって左右され、高いベッ

大である。

調整機能4月に立ち上げ

答 高齢者福祉における施設と病院の役割は密接不可分と言える。検討会議も病院長

シルバー勤労会、地域で評価 弾力的運用を

年齢要件を65歳→63歳に

問 シルバー勤労会

は、花壇整備など美化推進活動に大きく貢献し、町民から高く評価されている。一方、会員の高齢化と減少傾向により、グループ活動に不安要素が出ているため、加入条件の弾力

的運用を願いたい。

答 平均年齢が72歳と高齢化し、作業効率、安全性、年間計画に影響がでてきた。当面の措置として、年齢要件だけ65歳→63歳に引き下げたい。

がトップとして進めてくれた。病院と各福祉施設の信頼関係も醸成されてきている。グループホーム、高齢者アパート、訪問介護事業の当町参入はありがたい。これら事業所とどう共存共栄していくか、4月に調整機関「町高齢者福祉施設等連絡会議」を立ち上げる。

ふるさと納税の積極的な
取り組みと活用について

町を応援する気持ちを
大切にしていく



石橋 昌幸 議員

でも見直しするべき
では。

問 寄付することで節
税でき、その自治体の
街づくりに参加でき、
公益につながる活動を
支援し、その町の情報
などにふれることが出
来る、それがふるさと
納税。今、その町の特
産品などの特典を設け
るなど道内の市町村で
関心が高まり急増して
いる。町づくりとなる
新たな収入が公園の整
備、子供の教育、後継
者対策などに使われて
いる。この事などを考

答 標津町としては、
制度発足時の純粋に町
を応援する気持ちを大
切にしていく。ふるさと
応援町民として登録
して、毎月広報しべつ
や、ふるさと応援町民
情報を送付し、標津漁
協、標津農協の鮭やホ
タテ、バターの町民還
元時に希望者を募って
届けている。



標津サーモンハウス

道の駅の必要性について

魅力作りが必要

問 サーモンパーク施
設に客を取り込むため
の道の駅を設置する要
望書。商店街の活性
化を目的とした複合施
設。町民の使いやす
い、観光客が満足す
る。この二つの可能性
への議論についてどう
考えてるのか。

答 民間による主体的
な運営体が可能であ
れば推進していく。商
業施設の議論にも参加
する中で結論を導いて
いく。この二つにしても
魅力作りだと思っている。
当町は集客機能が分散
している。考えなけれ
ばならないと思う。

災害対策の再確認

住民の安心と安全が一番

問 厳しい冬、大規模
な災害が起きたなら
ば、夏場に比べて格段
に過酷な条件が想定さ
れる。避難に対する
事態を想定し、災害の
訓練、避難ルート。避
難場所などに関心が高
まっている。備えはど
うなのか。

答 東日本大震災から
3年を迎え、標津町を
含め全国の自治体は
3・11を教訓に防災・
減災の取り組みを行っ
ている。真冬の厳しい
暴風雪（吹雪）にも、
住民の安心と安全とい
う意味では一歩一歩確
実に取り組む。



町営テニスコート

**産業後継者の婚活支援に
専門職員の配置を!!**

**『婚活』を事業として捕え
婚活コーディネーターを
配置したいが…**

定住人口対策

問 人口減少時代に挑戦する「政策パッケージ」の子宝・子育ての政策5事業は、大変素晴らしい事業内容であるがそれ以前の、未婚化が進む産業後継者に対する積極的な婚活支援が強く望まれる。産業後継者が結婚し家庭を築いていかなければ、地元産業は継続不可能となり、定住人口対策の根元を揺るがし、町

の存亡の危機につながる。その為には、従前にあった「結婚相談員」的な専門職員を配置し所管と共に、対象者に対しビフォーからアフターまで、きめ細かな支援をする事が成婚率を上げる要である。是非とも、専門職員の配置を!!

答 産業後継者の婚活支援を事業として捕え、専任の婚活コーディネーターを配置したいところであるが、適任なる人材に苦慮中である。



木下 孝 議員

平成26年度にお

zwei 株式会社ツヴァイ
イオンの結婚相談所「ツヴァイ」

結婚相談所「ツヴァイ」 **参考資料**

地方自治体の結婚支援事業サポート 地方自治体の結婚支援事業をツヴァイがサポートいたします。

近年、急速に進む未婚化・晩婚化が少子化の要因のひとつとされる中、地方自治体では子育て支援に加えて、結婚支援事業にも積極的に取り組まれております。今年度受託実績を踏まえ、今後、地方自治体と連携して地域に貢献していくきっかけになるものと考えております。

パーティ・セミナー運営や、恋愛・結婚に関するアドヴァイザリー業務など、これまで培ってまいりましたノウハウを、地方自治体で結婚支援事業に携わる方々に提供し、出会いの場作りをサポートいたします。

いて「産業後継者婚活支援」として195万2千円を計上(25年度は20万円)し、大手結婚相談所「ツヴァイ」(参考資料参照)との連携事業を企画している。

26年度の実施状況を勘案し、次年度へ継承していく。

**『道の駅』構想、「北方領土館」と併せて、
サーモンパークに「極集中しては？」**

交流人口対策 **多面的検討を要す**

問 町は「道の駅」に関する具体案を提示していないが、「道の駅」こそ、交流人口対策の最たるものである。

その候補地に関しては、過去に数箇所が挙げられていたが、その何れも諸事情により挫折した経緯がある。

ここで、その予定地として、当町のランドマークであるサーモン科学館のあるサーモンパークを推す。更に、昭和54年に建設し、老朽化の目立つ北方領土館を併設し、観光交流拠点として、一極集中すべきである(その際最良の経済効果を考慮した動線を描くべき)以上、「道の駅」の構想を提案するが、町長の見解を伺いたい。

答 力強い提言を頂いたが、一極集中した場合

①町の空洞化を招く恐れがあるのでは?
②3施設への動線をどの様にするか等、その道の専門家を入れて、助言・指導を頂きながら、多面的検討を重ねる必要がある。



標津サーモンパークの全景

その他の質問

- サーモン科学館の入館者減少の要因は?(H23↓H24)
- 標津町の宿泊施設の宿泊キャパシティは?

遊休町有地《川北市街地区》

参考資料

1 川北駐在所裏(川北2460-7)



319坪 1,056.00㎡

2 老人憩の家跡地(川北93-24)



742坪 2,449.36㎡

3 川北保育園跡地(川北63-41)



701坪 2,314.04㎡

4 日本ベニヤ跡地(川北60-80,81)



482坪 1,590.94㎡

5 旧川北公営住宅跡地(川北2462-1)



536坪 1,775.00㎡



吉田 智 議員

未来航路の羅針盤

「人口減少時代に挑戦する政策パッケージ」の成果は

《川北市街地区》遊休町有地の分譲を

問 当町は、人口漸減問題を真摯に捕え、ふるさと新生プラン「ステップⅡ」の4つの戦略プランを縦・横断し、人口減少時代に挑戦する政策パッケージ(二括政策)として、追加した。そのパッケージ

新規事業の
※1 ①出産祝い金の給付
②住宅取得支援
等の事業を内外にPRし、定住・移住促進を

計るべき。『政策パッケージ』の成果は、本町の未来航路の羅針盤である。↓具体策として川北市街地区の遊休町有地(参考資料参照)を分譲しては如何か?

答 川北市街地区をモデルケースとし、「(仮称)川北市街地区整備計画策定委員会」を組織し、住民と検討を重ねる。(例えば、現況のままで、遊休町有地を宅地として、分譲して行く事も一つの方策)

《川北市街地区をモデルケースとし》
「(仮称)川北市街地区整備計画策定委員会」
を組織し、住民と検討を重ねる

※1 出産祝い金の給付 (第一子5万円・第二子10万円・第三子以降50万円給付)

※2 住宅取得支援 (住宅新築 最高300万円補助・中古住宅取得 最高100万円補助)

予算審査特別委員会

平成26年3月10日～13日

平成26年度 予算原案可決

総額 83億8,613万円

一般会計 54億1,100万円
 7 特別会計 21億 385万円
 病院事業会計 8億7,128万円

平成26年度標津町一般会計を含む9会計予算については、議長を除く10名の議員により予算審査特別委員会（石橋昌幸委員長・藤本靖副委員長）を設置し3月10日から13日の4日間にわたって慎重に審議した結果、本会議において全会一致で可決しました。



藤本靖副委員長



石橋昌幸委員長

予算審査報告

事件の番号	事件名	事件の番号	事件名
議案第4号	消費税及び地方消費税の税率改正に伴う関係条例の整備に関する条例制定	議案第24号	平成26年度標津町介護保険特別会計（事業勘定）予算
議案第5号	標津町子ども医療費助成条例制定	議案第25号	平成26年度標津町介護保険特別会計（サービス事業勘定）予算
議案第9号	標津町国民健康保険標津病院設置等に関する条例の一部を改正する条例制定	議案第26号	平成26年度標津町後期高齢者医療特別会計予算
議案第21号	平成26年度標津町一般会計予算	議案第27号	平成26年度標津町簡易水道特別会計予算
議案第22号	平成26年度標津町国民健康保険特別会計（事業勘定）予算	議案第28号	平成26年度標津町下水道特別会計予算
議案第23号	平成26年度標津町国民健康保険特別会計（病院事業）予算	議案第29号	平成26年度標津町金山地域休養施設等特別会計予算

～人口減少時代に挑戦する「政策パッケージ」～

平成26年度の主な事業

「海・山・川・大平原がおりなす 感動の大地・標津町」の実現に向けて、「ふるさと新生プラン・ステップⅡ」および「政策パッケージ」で掲げた事業の確実な実践を進めます。

笑顔あふれる思いやりのあるまちづくり

～福祉・健康・教育の推進による支えあいと人づくり～

活気に満ちた産業・経済のまちづくり

～基幹産業と経済の振興・発展～

安心して快適に暮らせるまちづくり

～環境・防災対策の推進と住民との協働事業による快適な定住地域の実現～

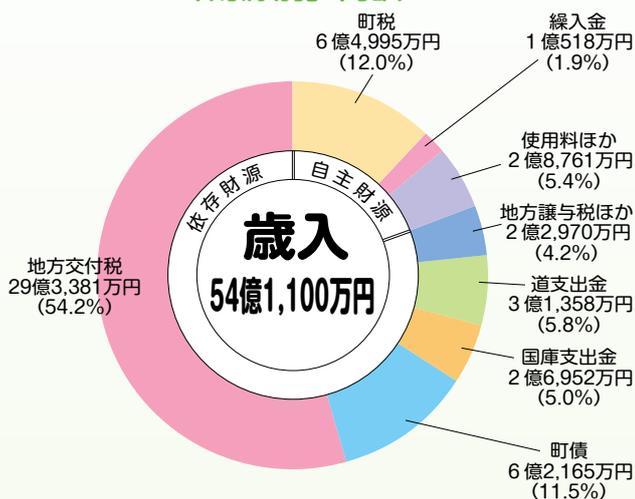
平成26年度 一般会計予算

対前年比
0.3%増

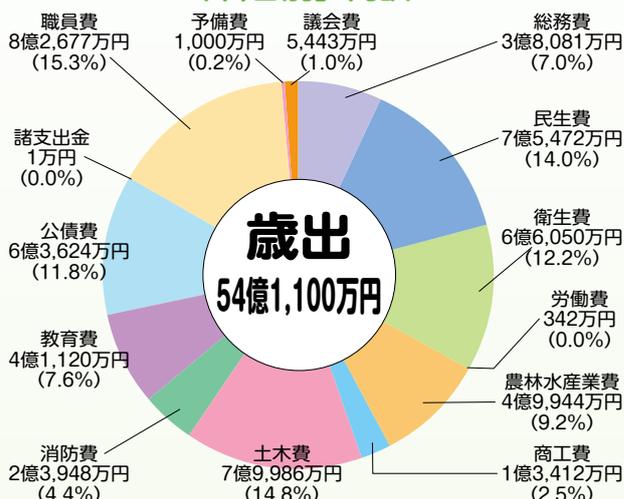
54億1,100万円 でスタート

～町民力・地域力・行政力の結集によるまちづくりの実践～

「財源別」内訳



「科目別」内訳



※自主財源 10億4,274万円 (19.3%)
 ※依存財源 43億6,826万円 (80.7%)

町債 = 借金

公債費 = 返済金

基金 = 貯金

各会計予算額

会計区分		平成26年度	平成25年度	対前年度比較 (%)
一般会計		54億1,100万円	53億9,293万円	0.3
特別会計	国民健康保険特別会計 (事業勘定)	9億4,424万円	9億4,269万円	0.2
	介護保険特別会計 (事業勘定)	4億5,743万円	4億2,798万円	6.9
	介護保険特別会計 (サービス事業勘定)	2,724万円	3,426万円	▲20.5
	後期高齢者医療特別会計	1億2,355万円	1億1,808万円	4.6
	簡易水道特別会計	2億1,123万円	1億7,006万円	24.2
	下水道特別会計	3億2,343万円	3億4,772万円	▲7.0
	金山地域休養施設等特別会計	1,673万円	1,540万円	8.6
	特別会計合計	21億385万円	20億5,683万円	2.3
企業会計	国民健康保険特別会計 (病院事業)	7億8,877万円	7億2,147万円	9.3
	資本的収支	8,251万円	1億5,074万円	▲45.3
	企業会計合計	8億7,128万円	8億7,221万円	▲0.1
総計		83億8,613万円	83億2,198万円	0.8

※各会計の端数処理により、合算と合計額が合わない場合があります。

議員の出欠状況 (平成25年度)

出席……○
欠席……×

【定例会】議員11人

年・月・日	氏名 議会名	稗 貫	吉 田	藤 本	南	大 垣	石 橋	藤 巻	木 下	高 橋	小 川	田 中
H25.6.11	第2回定例会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H25.9.18	第3回定例会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H25.9.19		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H25.12.17	第4回定例会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H25.12.18		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H26.3.6	第1回定例会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H26.3.7		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H26.3.13		○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○

【予算審査特別委員会】委員数10人

年月日	氏名	稗 貫	吉 田	藤 本	南	大 垣	石 橋	藤 巻	木 下	高 橋	小 川
H26.3.10		○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
H26.3.11		○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
H26.3.12		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H26.3.13		○	○	○	○	○	○	○	×	○	○

【議会運営委員会】委員数5人

年月日	氏名	藤 巻	大 垣	小 川	木 下	石 橋
H25.5.14		○	○	○	○	○
H25.6.4		○	○	○	○	○
H25.9.11		○	○	○	○	○
H25.12.11		○	○	○	○	○
H26.1.20		○	○	○	○	○
H26.2.27		○	○	○	○	○

【全員協議会】委員数11人

年月日	氏名	稗 貫	吉 田	藤 本	南	大 垣	石 橋	藤 巻	木 下	高 橋	小 川	田 中
H25.9.11		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H25.11.28		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【文教福祉建設常任委員会】委員数5人

年月日	氏名	石 橋	南	高 橋	藤 巻	藤 本
H25.5.14		○	○	○	○	○
H25.6.4		○	○	○	○	○
H25.7.19		○	○	○	○	○
H25.8.12		○	○	○	○	○
H25.8.27		○	○	○	○	○
H25.9.11		○	○	○	○	○
H25.9.25		○	○	○	○	○
H25.10.31		○	○	○	○	○
H25.11.28		○	○	○	○	○
H25.12.11		○	○	○	○	○
H26.1.10		○	○	○	○	○
H26.2.10		○	○	○	×	○
H26.2.24		○	○	○	○	○

【決算審査特別委員会】委員数9人

年月日	氏名	稗 貫	吉 田	藤 本	南	石 橋	藤 巻	木 下	高 橋	小 川
H25.10.21		○	○	○	○	○	○	○	○	○
H25.10.22		○	○	○	○	○	○	○	○	○
H25.10.25		○	○	○	○	○	○	○	○	○

【広報特別委員会】委員4人

年月日	氏名	大 垣	南	石 橋	吉 田
H25.4.16		○	○	○	○
H25.4.22		○	○	○	○
H25.6.11		○	○	○	○
H25.6.21		○	○	○	○
H25.7.9		○	○	○	○
H25.7.19		○	○	○	○
H25.7.24		○	○	○	○
H25.9.18		○	○	○	○
H25.10.17		○	○	○	○
H25.10.24		○	○	○	○
H25.12.18		○	○	○	○
H26.1.9		○	○	○	○
H26.1.20		○	○	○	○
H26.1.24		○	○	○	○
H26.2.4		○	○	○	○
H26.3.7		○	○	○	○
H26.3.19		○	○	○	○

【総務経済常任委員会】委員数5人

年月日	氏名	藤 巻	大 垣	南	藤 本	
H25.4.24		○	○	○	○	
年月日	氏名	木 下	吉 田	小 川	大 垣	稗 貫
H25.5.14		○	○	○	○	○
H25.6.4		○	○	○	○	○
H25.6.11		○	○	○	○	○
H25.7.4		○	○	○	○	○
H25.8.6		○	○	○	○	○
H25.9.11		○	○	○	○	○
H25.10.17		○	○	○	○	○
H25.11.1		○	○	○	○	○
H25.12.4		○	○	○	○	○
H25.12.11		○	○	○	○	○
H26.1.20		○	○	○	○	○
H26.2.24		×	○	○	○	○
H26.3.24		○	○	○	○	○

【議員定数調査等特別委員会】委員数10人

年月日	氏名	稗 貫	吉 田	藤 本	南	大 垣	石 橋	藤 巻	木 下	高 橋	小 川
H25.4.16		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H25.5.14		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H25.6.21		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H25.7.17		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H25.8.12		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H25.8.26		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H25.9.11		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

【臨時会】議員11人

年・月・日	氏名 議会名	稗 貫	吉 田	藤 本	南	大 垣	石 橋	藤 巻	木 下	高 橋	小 川	田 中
H25.5.14	第2回臨時会	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
H25.7.9	第3回臨時会	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○

寄稿

ワインの魅力

(有)山本商店

代表取締役 山本 祐一

ワインに関わるようになってからかなりの年数が経ちます。

ワインについて分かる事も多くなつたのですが、ワインを知ることでますますその奥深さを思い知らされています。

昔、それほど輸入ワインが流通していなかった頃はワインは飲むよりも本の上でその存在を知るものでした。

ワインを理解するために本に載っているワインを片っ端から飲まなければならぬとしたら気の遠くなるような、とつてい出来ない作業のようにも思われました。

でも本を繰る度にそれらのワインに対する憧れは強くなつて行きました。

そんな時あるきつかけから輸入ドイツワインを扱うことになつたのですが、初めて入荷したワインの個性溢れるラベルを興奮しながら眺めたのを思い出します。それらは生産者元詰めというワインで、それまで飲んだことのある、

いわゆる桶買いをして瓶詰をする*1ネゴシアン物とは別物のような味わいでした。それが生産者とワインの関係について考える最初の出来事でした。

扱うワインはどんどんふえていき、ドイツワインに対する理解が深まると共にお気に入りのワインや生産者を挙げることができるようになりました。

しばらくしてそれらの生産者に会いにドイツへ行く機会ができました。初めてドイツのアウトバーンを走った時、気候や植生が北海道に似ているなど感じました。でも憧れのワイン畑の景色に出会った時には感動を憶えました。ひたすら葡萄畑が続く景色はどんな観光地よりも素晴らしいものに思えたものです。

ザールブルクの駅に降りると、ホームから線路の向こうの丘の中腹にハインツ・ワグナーの家が見えます。ザールの生産者で豊かな酸味と香りの沸き立つ強烈な印象を残す



ワインを造っています。

駅から歩いて彼の家に近づいていくと正にあのワグナーの表札が見えてきます。家は古いけれども重厚な石造りです。まず地下に案内されて醸造設備やセラーを見て、熟成中のタンクから直接試飲します。モーゼル地方の個人生産者は自宅と醸造施設が一緒になっている事が多く、斜面を利用して容易に地下のワインセラーを造ることが可能です。

セラーでの試飲を終えて居間に案内されると家具などの調度品は100年以上経っていると思われるような由緒あるもので皆きれいに磨きこまれています。そこでワインリストにしたがってまたワインの試飲が始まります。ワインは、クーベアーから始まり後に行くほどグレードがあがりワインテージも古いものになります。

私を飲む順序を考え、リストにしたがって飲んでいくのはとても楽しいものです。その場が段々盛り上がるようなリストを造るのがホストの腕の見せ所になります。ドイツワインは一つの生産者が辛口から甘口、またあらゆる等級のワインを造っているのでも一つ所で完結したリストを造れるのも特徴です。日本はドイツワインの消費量が減っていますが、一流のドイツワインは北米やアメリカなどで根強い需要があります。

私がワグナー家を訪れた当時、一人娘のクリスティアーネは9歳でした。彼女はワインやワインに関係する仕事が好きで、ワグナー家の2種類の畑からワインを飲んでどちらかを見事に当てていたのには驚かされたものです。

彼女は現在ワイングートを父から譲り受け自らのワインを造っています。最近では彼女らしさもワインに表現されているのではと感じることもあります。もしかするとクリスティアーネは父を超える醸造家になるかもしれません。

*1ネゴシアン (仏語 negociant) …卸売人。仲買人。ワイン商

編集室



第一号を発行にあたり、笹谷編集発行人が「この『議会だより』が

多くの人々に読まれ愛し親しまれ、又、建言等も頂いて、より良い標津町建設のために努めて参りたいと念願するものであります」と述べられておりますがこの指針は、46年の星霜を重ね、発刊150号を迎えた今日においても、議会広報誌の不変の信条であります。

先人の意思を引き継ぎ、一編集子として、「ありのままに、分かり易く住民と共に歩む紙面づくり」に邁進する所存であります。

(吉田 智)

議長 田中 孝幸

広報特別委員会

委員長 大垣 勇

副委員長 南 憲治

委員 石橋 昌幸

委員 吉田 智